

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成 28 年 10 月
福岡市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

(小学校調査)

- ・小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年

(中学校調査)

- ・中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学〕

国語，算数・数学それぞれ「A主に知識に関する問題」と「B主に活用に関する問題」を出題。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日時

平成 28 年 4 月 19 日（火）

(小学校調査)

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目
国語 A，算数 A (各 20 分)	国語 B (40 分)	算数 B (40 分)	児童質問紙 (20 分程度)

(中学校調査)

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目	5 時 限 目
国語 A (45 分)	国語 B (45 分)	数学 A (45 分)	数学 B (45 分)	生徒質問紙 (20 分程度)

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

児童生徒に対する調査について、平成 28 年 4 月 19 日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

②集計児童生徒数（4 月 19 日に調査を実施した児童生徒数）

（小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年）

国語 A 12,171 人

国語 B 12,169 人

算数 A 12,171 人

算数 B 12,172 人

（中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年）

国語 A 11,617 人

国語 B 11,619 人

算数 A 11,620 人

算数 B 11,620 人

③集計学校数

（小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年）

小学校 141 校（志賀島小と小呂小の 2 校は，調査対象児童がいない為，未実施）

特別支援学校 2 校

（中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年）

中学校 69 校

特別支援学校 1 校

2. 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、本市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、本市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも本市の学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査の結果からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果と全体考察

①教科に関する調査結果の概況

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

小学校調査		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
福岡市(市立)	平均正答率	72.8	58.8	77.8	48.5
福岡県(公立)	平均正答率	71.7	57.8	77.8	47.3
全国(公立)	平均正答率	72.9	57.8	77.6	47.2
福岡県との比較		+1.1	+1.0	0	+1.2
全国との比較		-0.1	+1.0	+0.2	+1.3

○ 国語 B, 算数 A, 算数 B の 3 分類で全国平均を上回る。

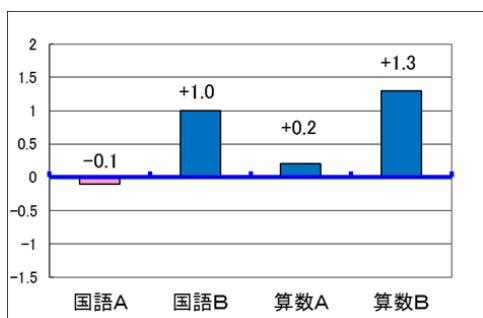
○ 国語 A は, 全国平均をわずかに下回る。

中学校調査		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
福岡市(市立)	平均正答率	76.1	68.2	62.5	44.7
福岡県(公立)	平均正答率	74.8	65.8	60.3	42.4
全 国(公立)	平均正答率	75.6	66.5	62.2	44.1
福岡県との比較		+1.3	+2.4	+2.2	+2.3
全国との比較		+0.5	+1.7	+0.3	+0.6

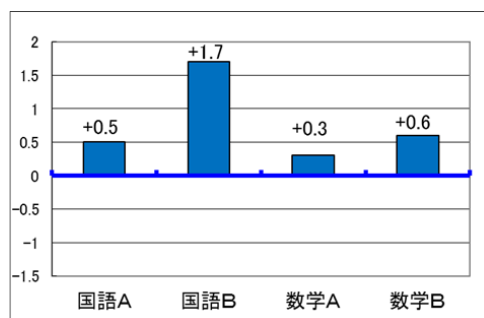
○ 国語 A, 国語 B, 数学 A, 数学 B の 4 分類すべてで全国平均を上回る。

②全国と福岡市の平均正答率の比較

(小学校)

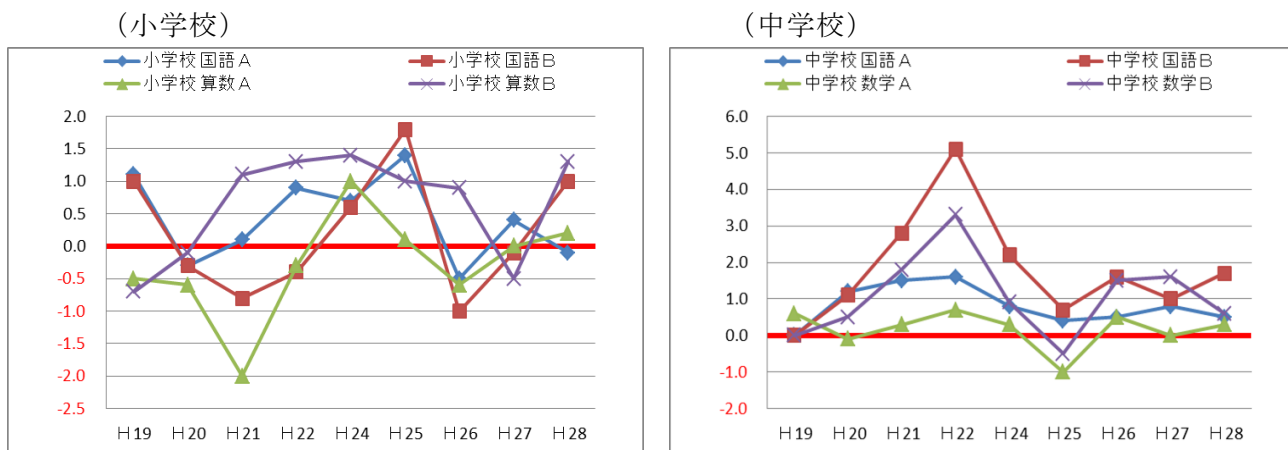


(中学校)



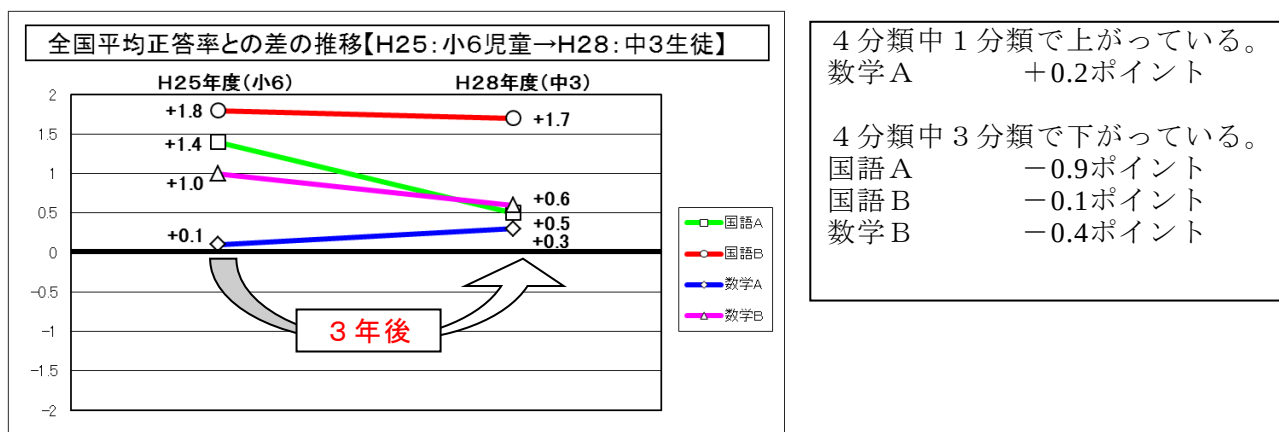
※全国平均正答率を0として、福岡市の平均正答率と比較

③分類ごとに見た全国と福岡市の平均正答率の経年比較（平成 19 年度～平成 28 年度）



- (小学校)
- ◆平成27年度と比べ、今年度は3分類で上がり、国語Aが下がっている。
- (中学校)
- ◆平成27年度と比べ、今年度は2分類で上がり、2分類で下がっている。

④平成 25 年度の小 6，平成 28 年度の中 3 の同一児童生徒群結果の経年比較



- ◆小学校 6 年生時（平成25年度）においては、全ての分類で全国平均正答率を上回っていた。3年後の中学校 3 年生時（今年度）の調査においても、全国平均正答率との比較では全ての分類で上回っているが、小学 6 年生時と比べると、1 分類で上がり 3 分類で下がっている。

(学校質問紙から) 肯定的回答 (4段階中の上位2段階の合計の割合)

問「調査対象児童(生徒)に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか」

	H25 (小6時)	H28 (中3時)
肯定的回答率	6.9%	10.1%
全国との差	-9.8	-5.5

◆肯定的な回答をした学校の割合は全国平均を下回っているものの、全国平均との差は4.3ポイント縮まっている。

問「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

	H25 (小6時)	H28 (中3時)
肯定的回答率	93.1%	94.2%
全国との差	+4.4	-0.6

◆H25に比べ、肯定的な回答をした学校の割合は上がったが、全国平均をわずかに下回っている。

(児童・生徒質問紙から) 肯定的回答 (4段階中の上位2段階の合計の割合)

問「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

	H25 (小6時)	H28 (中3時)
肯定的回答率	86.6%	87.8%
全国との差	-0.6	+3.2

◆肯定的な回答をした児童(生徒)の割合がわずかに上がり、全国平均を約3ポイント上回っている。

問「算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

	H25 (小6時)	H28 (中3時)
肯定的回答率	89.3%	76.4%
全国との差	+0.5	+4.9

◆肯定的な回答をした児童(生徒)の割合は、10ポイント以上下がっているが、全国平均を約5ポイント上回っている。

問「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」

	H25 (小6時)	H28 (中3時)
肯定的回答率	56.0%	57.4%
全国との差	-3.4	-4.8

◆肯定的な回答をした児童(生徒)の割合は、わずかに上がっているが、全国平均との差は1.4ポイント広がっている。

問「算数(数学)の授業で問題を解く時、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」

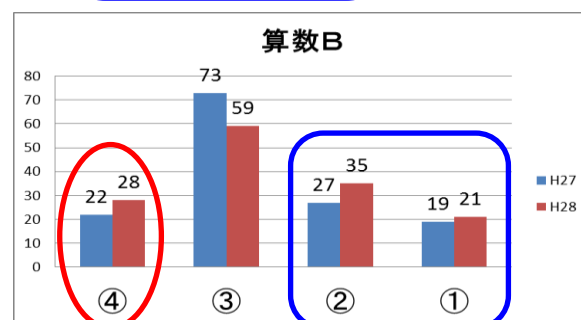
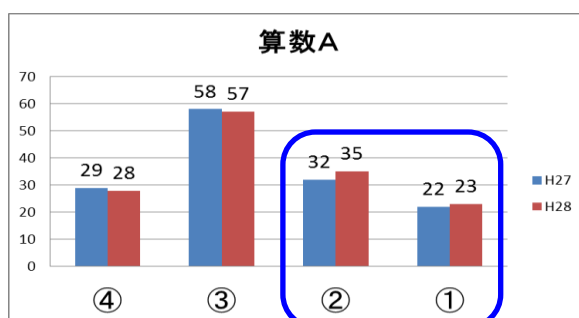
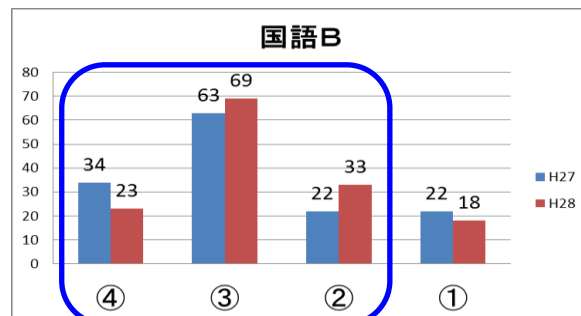
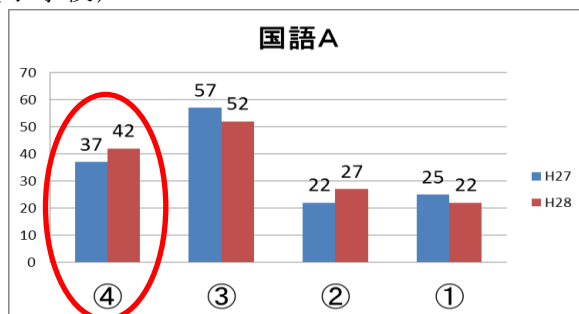
	H25 (小6時)	H28 (中3時)
肯定的回答率	79.4%	67.0%
全国との差	-0.3	-2.0

◆肯定的な回答をした児童(生徒)の割合が10ポイント以上下がり、全国平均との差も、1.7ポイント広がっている。

⑤ 4段階の各学校群ごとの校数（昨年比）

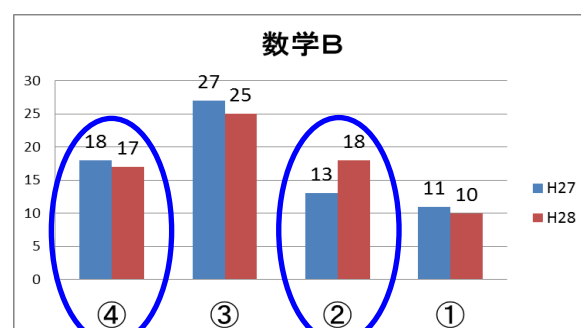
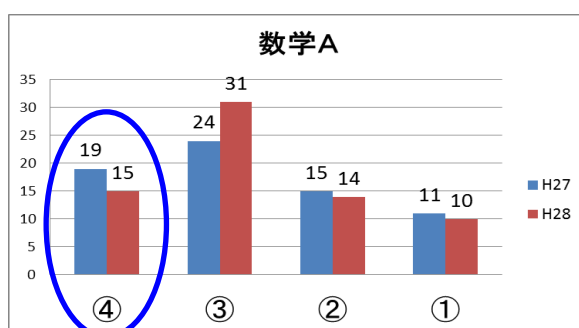
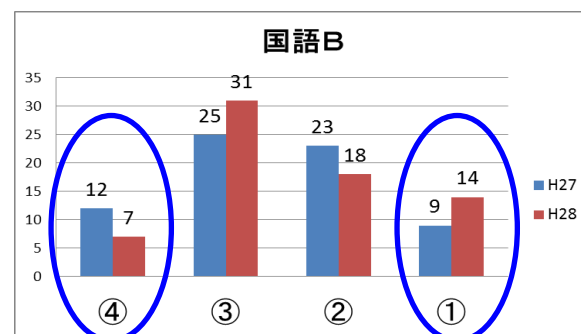
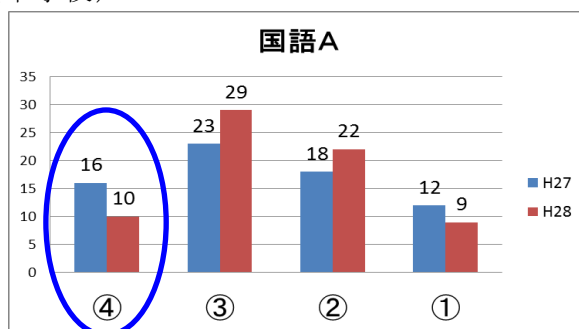
※ ①「上回っている」 ②「やや上回っている」 ③「同程度である」 ④「努力を要する」の4段階で学校群を示す。

（小学校）



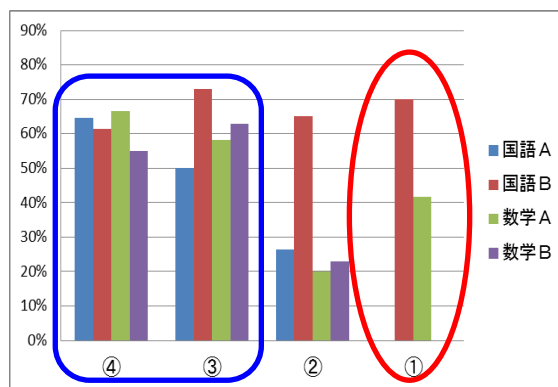
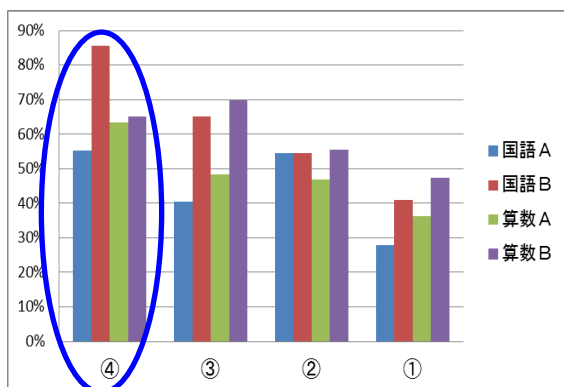
- ◆国語Aは、下位群（④）の校数が増えている。国語Bは下位群（④）の校数が減って中位群（③）や上位群（②）の校数が増え、向上が見られた。
- ◆算数は、A Bともに上位群（①，②）の校数が増え、全体として向上傾向にあるが、算数Bでは、下位群（④）の学校も増えている。

（中学校）



- ◆国語は、A・Bともに下位群（④）の校数が半減し、中位群への向上が見られるが、Aは上位群（①）の校数も減っている。Bは上位群（①）の数が増えている。
- ◆数学Aは、下位群（④）の数が減り、中位群（③）への向上が見られるが、上位群（①や②）の校数も減り、中位群（③）への下降も見られる。数学Bも、下位群（④）中位群（③）の校数が減り、上位群（②）への向上が見られる。

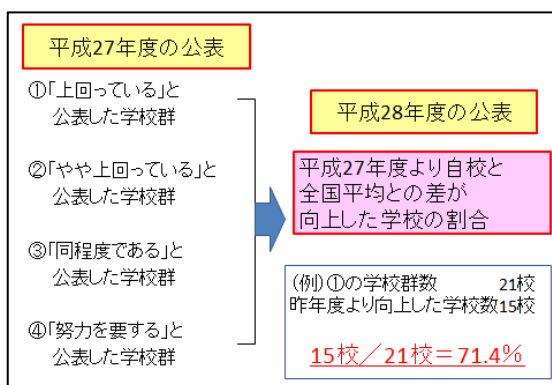
⑥ 平成 27 年度の学校群ごとの平均正答率が向上した学校数の割合
(小学校) (中学校)



【集計方法】

- ◆平成27年度の公表に合わせ、小中学校を次の4つの学校群にする。
- ◆学校群ごとに、昨年の自校正答率の全国平均差に比べ、本年度向上した学校の割合を出す。

【参考】



◆小学校では、国語 B や算数 B において、向上した学校数の割合が高くなっている。特に国語 B では下位群で向上した学校数の割合は 80% を越えている。しかし、どの群も 4 分類のうち、国語 A で向上した学校の割合が低くなっている。

◆中学校では、すべての分類において下・中位群（③や④）で向上した学校数の割合が高い。昨年度、上位群（①や②）において、国語 B の伸びた学校がないことが課題であったが、今年度はどの群も、国語 B が向上した学校の割合が、60% 以上と高くなっている。しかし、その他の 3 分類においては、向上した学校の割合が低くなっており、向上した学校がない分類もある。

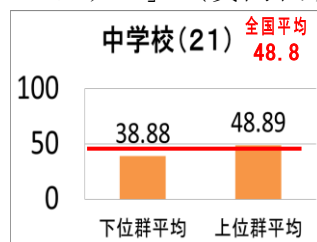
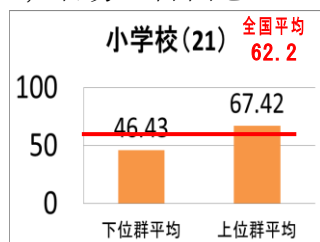
⑦ 学校群と学校・児童生徒質問紙の相関

※上位群，下位群それぞれ無作為に 10 校を抽出

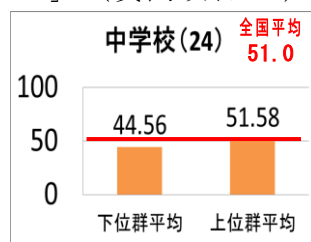
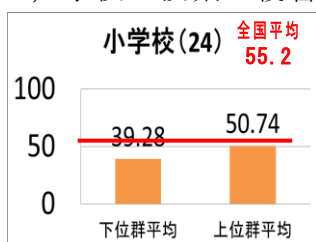
※数値は，肯定的な回答（4 段階中の上位 2 段階の合計値）の平均

○家庭学習にかかわる質問項目

「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」（質問紙項目 21）



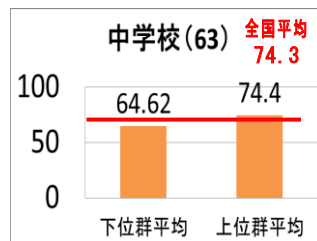
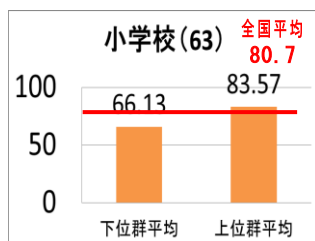
「家で，学校の授業の復習をしていますか」（質問項目 24）



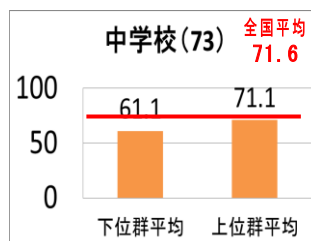
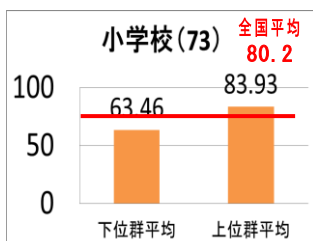
◆上位群と下位群の学校の児童生徒では，「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に対する回答で，下位群の学校は上位群に比べ，小学校で約20ポイント，中学校で約10ポイント低くなっている。

○授業の理解度にかかわる質問項目

「国語の授業の内容はよく分かりますか」（質問項目 63）



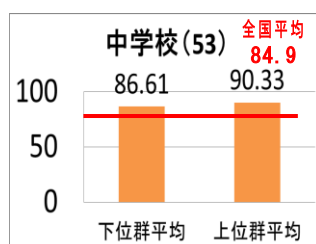
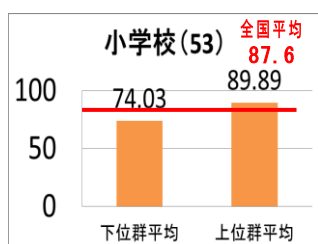
「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」（質問項目 73）



◆国語・算数（数学）について「授業の内容はよく分かりますか」の設問に対し，下位群の学校の児童生徒で「わかる」と回答した児童生徒は，上位群に比べ，約10ポイント低くなっている。

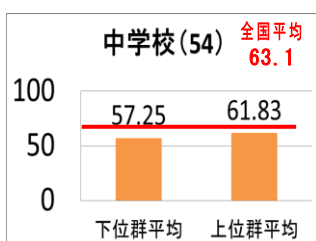
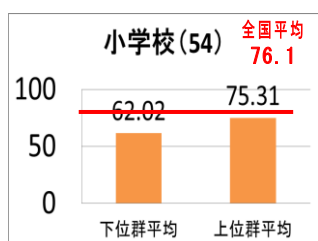
○学習指導にかかわる質問項目

「これまでに受けた授業の中で、めあてやねらいが示されていたと思いますか」



(質問項目 53)

「前学年のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」 (質問項目 54)

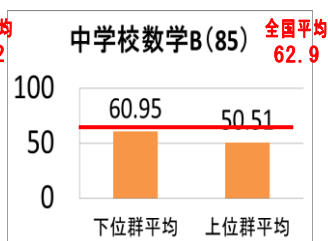
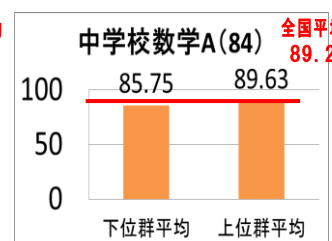
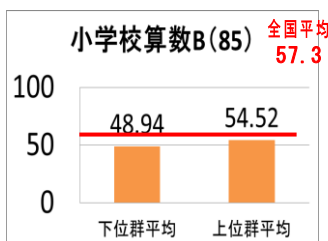
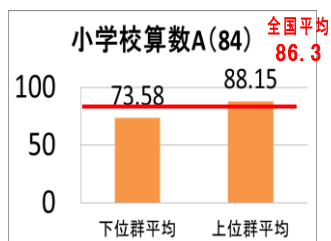
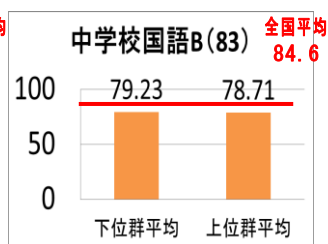
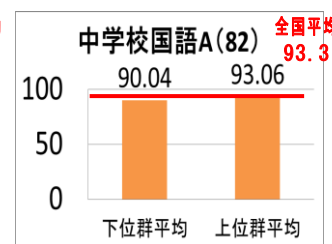
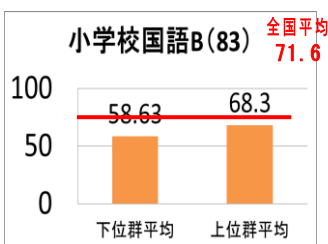
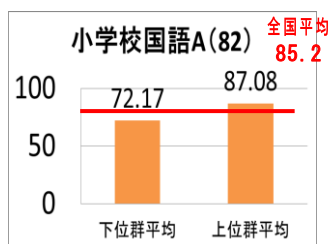


◆「これまでに受けた授業の中で、めあてやねらいが示されていたと思いますか」

「前学年のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の設問に対する回答で、下位群の学校は上位群に比べ、小学校で10ポイント以上低くなっている。

○調査問題への意識にかかわる質問項目

「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (82～85)



◆「調査問題の解答時間は十分でしたか」という設問に対し、B問題について「十分だった」と回答している児童生徒が、上位群・下位群に関わらず低くなっている。特に中学校では、下位群と上位群の回答率が逆転している。

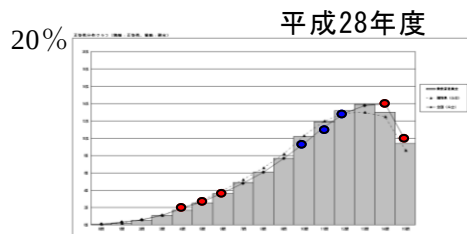
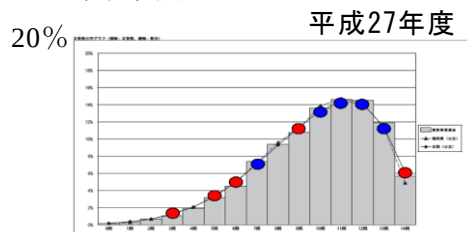
⑧ 平成 27 年度，平成 28 年度の分類別正答率分布（全国・県との比較）

横軸：正答数 縦軸：割合

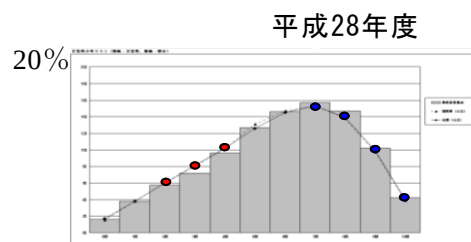
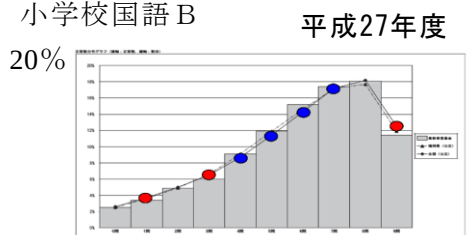
全国正答率分布より ● 上回っている ● 下回っている

福岡市 ■ 福岡県 ▲ 全国 ◆

小学校国語 A

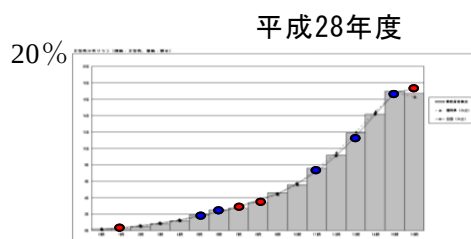
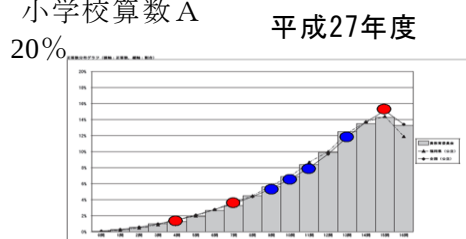


小学校国語 B

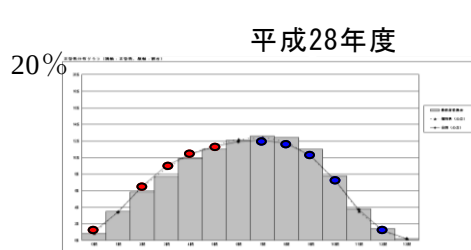
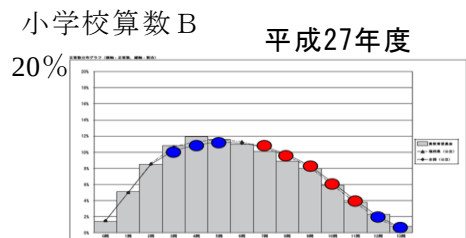


◆ 国語 A は，上位層と下位層の割合が全国の割合を下回っており，中位層の割合が全国の割合を上回っている。国語 B は，上位層の割合が高くなっており，下位層の割合が全国の割合を下回っている。

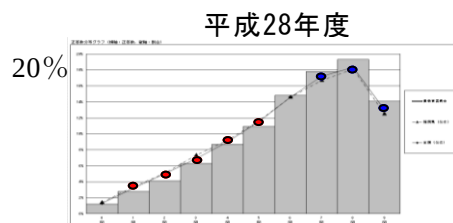
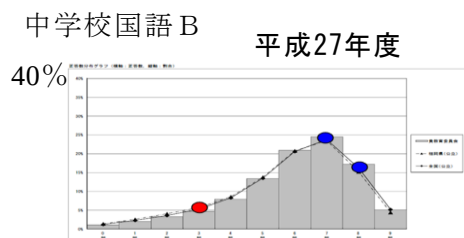
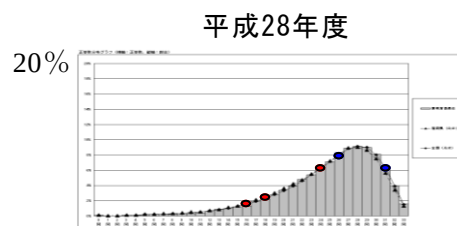
小学校算数 A



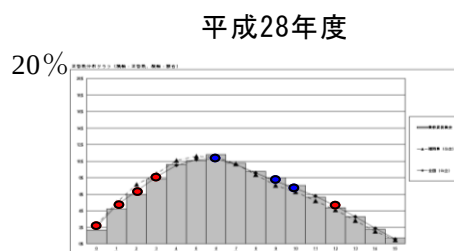
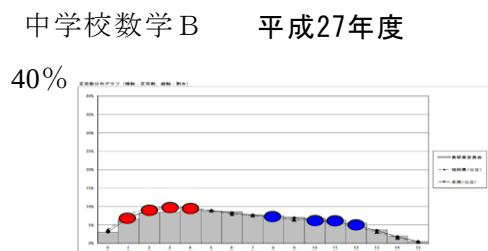
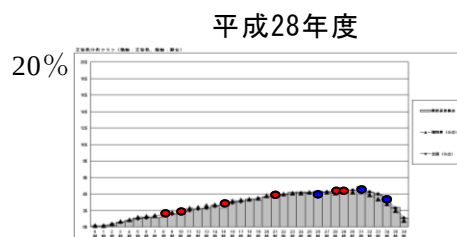
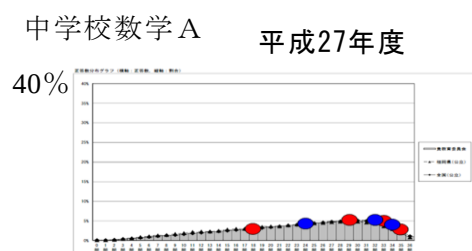
小学校算数 B



◆ 算数 A は，上位層の割合が高くなっており，中位層の割合が全国の割合を上回っている。算数 B は，下位層の割合が全国の割合を下回っており，中位層と上位層の割合が全国の割合を上回っている。



◆国語 A は、分布に大きな変化はないが、上位層の割合が全国の割合を上回っている。国語 B は、上位層の割合が高くなっており、下位層の割合が全国の割合を下回っている。



◆数学 A は、分布に大きな変化はないが、上位層の割合が全国の割合を上回っている。数学 B は、下位層の割合が全国の割合を下回っている。

(3) 小学校国語に関する調査結果について

① 観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（小学校国語）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	72.8	72.9	58.8	57.8
国語への関心・意欲・態度			54.9	54.7
話すこと・聞くこと（能力）	81.2	79.2	52.3	51.1
書くこと（能力）	74.7	72.8	54.4	53.4
読むこと（能力）	79.2	78.5	68.9	69.3
言語についての知識・理解・技能	70.4	71.1		

- ◆観点・領域ごとでは、国語A、Bともに「話す・聞く能力」、「書く能力」で全国平均正答率を上回っている。国語Bは、「国語への関心・意欲・態度」も全国平均正答率を上回っている。
- ◆国語Aは「言語についての知識・理解・技能」、国語Bは「読む能力」で全国平均正答率をそれぞれ0.7ポイント、0.4ポイント下回っている。

② 平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を読む（貯金）	99.0	98.5	+0.5
	図と表とを関係づけて読む	92.9	93.1	-0.2
国語B	目的に応じて複数の本や文章を選ぶ	78.2	77.2	+1.0
	目的に応じて効果的な読み方を工夫する	78.0	77.9	+0.1

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	ローマ字を書く（あさって）	37.2	41.8	-4.6
	ローマ字を読む（hyaku）	45.2	50.7	-5.5
国語B	グラフから分かることを選択する	46.3	43.4	+2.9
	紹介したい内容をまとめて書く	50.6	52.9	-2.3

③児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問	「国語の勉強は好きですか」	56.3% (全国比 -2.0)
問	「国語の授業の内容はよくわかりますか」	78.3% (全国比 -2.4)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語A)	78.3% (全国比 -5.3)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語B)	58.1% (全国比 -8.3)

の割合が全国平均を下回っている。また、国語A、Bともに「調査問題の解答時間は十分だった」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度までに、漢字・語句等基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」	100.0% (全国比 +2.0)
問	「前年度までに、書く習慣をつける授業を行いましたか」	92.3% (全国比 -0.5)
問	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	61.5% (全国比 -15.6)
問	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	21.0% (全国比 -28.8)

◆学校質問紙調査では、「前年度までに、漢字・語句等基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った」と回答した学校が全国平均を上回り、「補充的な学習の指導を行った」、「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。

(4) 小学校算数における結果について

①領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（小学校算数）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	77.8	77.6	48.5	47.2
数と計算	80.0	80.5	45.9	44.4
量と測定	79.6	77.0	44.8	43.7
図形	77.9	78.8	36.7	36.3
数量関係	69.9	68.5	44.5	42.9

◆領域ごとでは、算数Aの「数と計算」で0.5ポイント、「図形」で0.9ポイント全国平均正答率を下回っている。算数Bでは、すべての領域で全国平均正答率を上回っている。

②観点ごとの調査結果

区分（小学校算数）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	77.8	77.6	48.5	47.2
算数への関心・意欲・態度				
数学的な考え方			41.9	40.9
数量や図形についての技能	82.7	82.5	55.7	53.3
数量や図形についての知識・理解	75.6	75.4	71.0	69.5

◆観点ごとでは、算数A，算数Bのすべての観点で上回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	2つの数の大小関係をとらえる	97.2	96.7	+0.5
	905－8を計算する	91.8	90.9	+0.9
算数B	正方形の縦と横の長さを変え面積をとらえる	93.7	92.6	+1.1
	正方形に内接する円をコンパスで書く	77.9	76.5	+1.4

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	割合の図に当てはまる数値を選ぶ	53.5	50.9	+2.6
	小数のわり算の商の大きさをとらえる	61.7	64.8	-3.1
算数B	式の意味の説明を記述する	7.3	6.9	+0.4
	式中の数値の意味を解釈し記述する	14.7	15.6	-0.9

④児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問	「算数の勉強は好きですか」	64.6% (全国比 -1.4)
問	「算数の授業の内容はよくわかりますか」	77.6% (全国比 -2.6)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (算数A)	82.2% (全国比 -4.1)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (算数B)	50.6% (全国比 -6.7)

◆児童質問紙調査では、「算数の勉強が好き」、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を下回り、算数A、算数Bともに、「調査問題の回答時間は十分だった」と答えた児童の割合も全国平均を下回っている。

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度に、計算問題等の反復練習をする授業を行いましたか」	97.9% (全国比 +0.2)
問	「前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか」	55.3% (全国比 +21.7)
問	「前年度に、習熟の早いグループに対して少人数指導を行い、発展的な内容を扱いましたか」	16.8% (全国比 -8.1)
問	「前年度に、発展的な学習を行いましたか」	35.7% (全国比 -29.3)

◆学校質問紙調査では、「チームティーチングによる指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っているが、「前年度までに、発展的な学習を行った」と回答した学校の割合は全国平均を大きく下回っている。

(5) 中学校国語における結果について

① 観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（中学校国語）	A（主に「知識」）の正答率		B（主に「活用」）の正答率	
	福岡市	全国（公立）	福岡市	全国（公立）
教科全体	76.1	75.6	68.2	66.5
国語への関心・意欲・態度			59.8	58.3
話すこと・聞くこと（能力）	79.1	78.9		
書くこと（能力）	73.5	73.7	59.8	58.3
読むこと（能力）	79.8	78.6	68.2	66.5
言語についての知識・理解・技能	74.3	73.9		

◆ 観点・領域ごとでは、国語Aの「書くこと」が全国平均正答率を0.2ポイント下回っている。

◆ 「読むこと」では、国語A、Bともに、全国平均正答率を上回っている。

② 平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を読む（封筒）	98.1	97.6	+0.5
	適切な語句を選択する（もちろん）	98.1	97.9	+0.2
国語B	目的に応じて必要な情報を読み取る	84.7	83.3	+1.4
	中心的な部分と付加的な部分を読み分ける	79.5	76.2	+3.2

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を書く（独創）	26.3	26.1	+0.2
	書き直した意図を説明する	30.7	36.4	-5.7
国語B	情報の収集方法を考える	50.8	49.2	+1.6
	根拠を明確にして自分の考えを書く	58.6	57.7	+0.9

③生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問	「国語の勉強は大切だと思いますか」	91.1% (全国比 +2.0)
問	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	88.0% (全国比 +3.2)
問	「国語の授業の内容はよくわかりますか」	70.1% (全国比 -4.0)
問	「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」	52.7% (全国比 -4.0)
問	「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」	57.4% (全国比 -4.8)

◆生徒質問紙調査では、「国語の勉強が大切だ」「学習したことが将来役に立つ」と答えた生徒の割合が全国平均を上回っている。また、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度までに漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」	100.0% (全国比 +1.6)
問	「前年度までに書く習慣を付ける授業を行いましたか」	95.7% (全国比 +0.5)
問	「前年度までに様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか」	78.3% (全国比 -10.4)
問	「発展的な学習の指導を行いましたか」	50.7% (全国比 -14.8)

◆学校質問紙調査では、「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」、「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。

(6) 中学校数学における結果について

①領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（中学校数学）	A（主に「知識」）の正答率		B（主に「活用」）の正答率	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	62.5	62.2	44.7	44.1
数と式	66.7	65.9	52.7	51.5
図形	67.2	67.1	34.3	33.3
関数	52.1	52.0	41.3	41.4
資料の活用	56.8	56.5	39.6	39.3

◆領域ごとでは、数学Aで全ての領域で全国平均正答率を上回っている。数学Bでは、「関数」が全国平均正答率を0.1ポイント下回っている。

②観点ごとの調査結果の概況

区分（中学校数学）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	62.5	62.2	44.7	44.1
数学への関心・意欲・態度				
数学的な考え方			39.8	38.9
数学的な技能	67.4	66.9	58.3	58.5
数量や図形についての知識・理解	57.1	56.8		

◆観点ごとでは、数学Aで全ての領域で全国平均正答率を上回っている。数学Bでは、「数学的な技能」が全国平均正答率を0.2ポイント下回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	正の数，負の数の計算 $-3+(-7)$	91.0	91.6	-0.6
	連立方程式を完成させる	89.8	89.7	+0.1
数学B	与えられた情報から必要な情報を選択する	81.1	79.3	+1.8
	考察の対象を明確にとらえる	77.8	76.4	+1.4

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	垂線の作図の方法をとらえる	30.7	30.9	-0.2
	数量の関係を文字式に表す	35.8	32.2	-3.6
数学B	与えられた式から解決方法を数学的に説明する	14.9	15.4	-0.5
	関係式から加えるべき条件を選択する	21.0	20.6	+0.4

④生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問	「数学の勉強は大切だと思いますか」	83.7% (全国比 +3.2)
問	「学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか」	76.4% (全国比 +4.9)
問	「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」	67.1% (全国比 -2.7)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか(数学B)」	53.4% (全国比 -9.5)

◆生徒質問紙調査では、「調査問題の解答時間は十分だった(数学B)」、「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と答えた生徒の割合が、全国平均を下回っている。

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか」	14.4% (全国比 -6.5)
問	「前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	81.2% (全国比 -9.4)
問	「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	56.5% (全国比 -12.6)

◆学校質問紙調査では、「前年度までに、発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。

3. 今後の課題

- ◆小中学校の各分類において、全国平均正答率をおおむね上回った一方で、児童生徒質問紙の回答において、小中学校ともに、授業内容の理解に関する回答が国語、算数・数学とも全国平均を下回った。授業内容の理解を確かにするための日々の授業改善と家庭学習のあり方を見直し、組織的に取り組んでいく必要がある。
- ◆児童生徒の得点分布の状況から、小中学校ともに、下位群であった学校に向上傾向が見られる一方で、中・上位群であった学校において、伸びがあまり見られなかった。全ての学校において、児童生徒一人ひとりの学力に応じたきめ細かな指導をさらに推進していく必要がある。
- ◆分類ごとでは、昨年度課題が見られた小学校の国語B、算数Bについては、向上が見られたが、国語A、算数・数学Aについては、小中学校ともに下降傾向が見られた。「知識・技能」を習得することに重点を置く授業とそれらを「活用」する力を伸ばす授業とを明確にするとともに、双方のバランスにも留意して意図的・計画的に指導していく必要がある。

4. 取組の方向性

(1) 各学校での取組の努力点

- ◆授業内容の理解を実感させる指導の充実
 - ・授業改善のポイント『学習したことの「まとめ」と「ふりかえり」の徹底』の再点検
 - ・授業と連動した家庭学習の工夫
- ◆児童生徒一人ひとりの課題に応じたきめ細かな指導の徹底
 - ・児童生徒の学力実態の分析と課題の明確化
 - ・少人数指導や習熟度別学習の内容の充実
 - ・教育課程の見直しにより生み出した約30時間の補充的な学習や発展的な学習の充実
- ◆ねらいを明確にした日々の授業改善の推進
 - ・授業改善のポイント『「教えること」と「学ばせること」を区別する』の再点検

(2) 教育委員会としての取組

- ◆学力向上のための教育課程の見直しと連携した学力向上の取組の推進
 - ・福岡市学習定着度調査と連動した連続的かつ系統的な分析
 - ・児童生徒の学力課題に応じた補充的な学習、発展的な学習の具体的な実践事例、効果的な教材等の紹介
- ◆学力分析シートを活用した、学校訪問等における指導主事の指導の充実
 - ・学校の課題に応じて作成した学力分析シートや学力向上推進プランの中間検証をもとにした各学校の課題や具体的な取組の明確化
 - ・各学校の学力課題や生徒指導上の課題に応じた学校との双方向的な協議
- ◆「学力向上のための研究大会（新規）」の開催
 - ・一人ひとりの学力課題に応じた指導事例の紹介
 - ・全市共通の取組内容の共有

資 料

○ 小学校国語 A で正答率が低かった問題

(例) [いぬ] ⇨ inu

1 [りんご] ⇨ _____

2 [あさって] ⇨ _____

3 hyaku ⇨ [_____]

※ 解答は、解答用紙に書きましょう。

8
次の1と2の言葉を、例のように、ローマ字でいねいに書きましょう。また、3のローマ字は、ひらがなでいねいに書きましょう。

○ 小学校国語 B で正答率が低かった問題

※ 左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※ ◆の印から書きましょう。どちらのうで行を変えないで、続けて書きましょう。

60字 40字

- 〈条件〉
- 谷口さんの「特に心に残ったこと」が伝わるように書くこと。
 - 「資料2」から取り上げて書くこと。
 - 四十字以上、六十字以内で書くこと。

【特に心に残ったこと】

喜 び	苦 勞
	材料の分量や焼く温度などをその日の天気などに合わせて変える必要があり、毎日同じ味になるように作ることが難しい。

【資料2をもとにしたメモの一部】

【特に心に残ったこと】
毎日、天気に関わらず同じ味になるように作るのは、とても難しいことだけれど、お客さんが喜んでくれた時には、やりがいを感じることができるとだ。

三 谷口さんは、パン職人の仕事について、「特に心に残ったこと」を中心に紹介したいと考えています。そこで、「資料2」を読み直しながら、紹介したいことをメモにまとめています。次の「資料2」をもとにしたメモの一部の [] の中に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。



○ 小学校算数Aで正答率が低かった問題

1

次の問題に答えましょう。

(1) $\square \div 0.8$ の商の大きさについて考えます。 $\square$ には0でない数が入ります。

下の **1** から **3** までの中から、正しいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 $\square \div 0.8$ の商は、 $\square$ より大きくなる。

2 $\square \div 0.8$ の商は、 $\square$ より小さくなる。

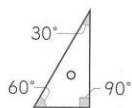
3 $\square \div 0.8$ の商は、 $\square$ と同じになる。

○ 小学校算数Bで正答率が低かった問題

5

右のような、 30° 、 60° 、 90° の角をもつ三角定規があります。

この三角定規を2枚使って、同じ長さの辺をあわせて、次の3種類の図形をつくりました。



① 正三角形



② 二等辺三角形



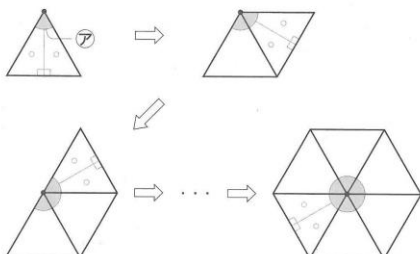
③ 四角形



これらの図形の中から1種類を選んで形をつくります。
ア、イ、ウのそれぞれの角が1つの点のまわりに集まるように、選んだ図形を並べていくと、どのような形ができますか。



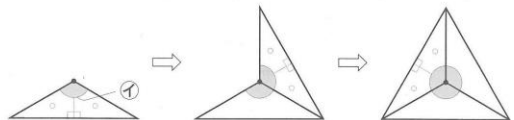
アの角が1つの点のまわりに集まるように、①の正三角形を並べていくと、6つで、正六角形ができました。



(1) 次に、下のように、②の二等辺三角形を選んで形をつくります。



イの角が1つの点のまわりに集まるように、②の二等辺三角形を並べていくと、3つで、正三角形ができました。



どうして3つでぴったりつくることができるのでしょうか。



$360 \div 120 = 3$ で、商が3になり、わり切れるからです。



そうですね。
では、 $360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。説明してみましょう。

$360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。
言葉と数を使って書きましょう。その際、「360」と「120」が何を表しているかがわかるようにして書きましょう。

六 大川さんは、意見発表会の題名の下書き「A」を、「B」のように書き直しました。どのように書き直しましたか。改善点の説明として適切なものを、あとの1から5までの中から二つ選びなさい。

みんなで目指す理想の学校

- 1 全ての文字を同じ大きさにして書き直した。
- 2 別の文字と見間違えないように字形を整えて書き直した。
- 3 書体を統一することを考えて全ての文字を行書で書き直した。
- 4 行の中心に文字の中心を合わせて書き直した。
- 5 用紙の大きさと文字数の関係に注意して書き直した。

三 高橋さんは、宇宙エレベーターについて疑問に思ったことを、学校図書館で調べることになりました。あなたなら、自分が疑問に思ったことを、学校図書館でどのように調べますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア【雑誌の記事】を読んで、宇宙エレベーターについてあなたが疑問に思ったことを、「なぜ」、「どのような（に）」、「どのくらい」という言葉のいずれかを使って、二十字以上、四十字以内で一つ書きなさい。

イアについて学校図書館で調べる場合、必要な本をどのように探しますか。本の探し方を二つ書きなさい。

もう夢物語ではない！
エレベーターで宇宙へ

地上と宇宙を結んで、人や物の行き来を可能にする「宇宙エレベーター」。これまではSF小説やアニメに登場する、空想世界だけの技術と考えられていたが、今や実現可能な技術として期待されている。

ケープルで地上と宇宙を
結ぶ

新たな物質の発見

宇宙エレベーターが
で動く昇降機を取り付けて人や

性が高まった。現在は、鉄の100倍の強度にすることを目指して研究が進められている。

赤道の高約3万6000
kmの位置に雷雲約3万6000
個、地球の回転と同じ
約1時間で一周するため、地上
からは静止しているように見え
る。この文字はテリオンナノ
ナノ（向けてカーボンナノ
チューブを著す）とするケフル
を伸ばしてある、ケフルは
やがて地上に到達し、地上と宇

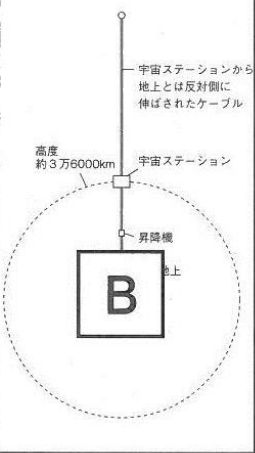
物質を運ぶために
宙にレベーターでよこ
なされ、地帯側には
引張られるが、その
宙ア・リーションは地
帯にさつまう。そのた
テリオンから地上上
へもリーションをばら
する必要があるのであ

宇
 だけの技術と考えられていた理
 由の一つは、ケーブルを作るこ
 る素材がないことだっ
 した。1991年にカー
 チュープという物質が
 できた。カーボンナノ
 は炭素からできた物質で
 あり、非常に軽く強いという特
 性をもっている。この発見によ
 り宇宙エレベーター実現の可能



▲ カーボンナノチューブの構造

宇宙エレベーターのイメージ



大量輸送もOK

ロケットよりも安い費用

これまでは、宇宙へ行くための方法として、スペースシャトルやソユーズなどのロケットを利用してきた。しかし、これらのロケットには大量の燃料などを積み込むため、荷物を多く積むことができなかった。それに代わって、電力で動く「宇宙エレベーター」を使えば、昇降機で大量の荷物をとくさんの人を宇宙へ運ぶことが可能になる。

▲スペースシ
く(右)

C

ロケットは、打ち上げに多
くの費用がかかることに加え、
一度使った機体の再利用も重
い。一方、宇宙エレベーター
は外から供給される資
すことが想定されても
、長い期間にわたって
使うことが可能なの
で、安い費用で宇宙に行くこ
ができると考えられている。

誰でも宇宙へ

現在、宇宙飛行士になるためには、健康面や科学的な知識、語学力などに関する様々な資質が求められている。

しかし、宇宙エレベーターは安全性が確保されれば、地上のエレベーターと同じように乗ることができると考えられている。宇宙エレベーターを使えば、誰でも宇宙に行くことができるようになるかもしれない。

○ 中学校数学Aで正答率が低かった問題

2 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(1) ある数を3でわると、商が a で余りが2になります。ある数を、 a を用いた式で表しなさい。

○ 中学校数学Bで正答率が低かった問題

6 美咲さんは、数当てゲームを行うために、次の手順を考えました。

手順

- ① 最初に数を1つ決める。
- ② ①で決めた数に10をかける。
- ③ ②の数から8をひく。
- ④ ③の数を2でわる。
- ⑤ ④の数に14をたす。

この数当てゲームは、手順通りに求めた数(⑤の計算結果)を教えてもらい、その数から、最初に決めた数(①で決めた数)を当てる遊びです。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書きなさい。

(2) 美咲さんは、この数当てゲームを優太さんで行いました。



美咲さんは、手順通りに求めた数が30であることから、優太さんが最初に決めた数は4であることを当てました。どのようにして当てることができたのか、文字を使って、その方法を考えます。

最初に決めた数を a として、前ページの手順にしたがって計算すると、次のようになります。

- ① 最初に決めた数を a とする。
- ② $a \times 10 = 10a$
- ③ $10a - 8$
- ④ $(10a - 8) \div 2 = 5a - 4$
- ⑤ $(5a - 4) + 14 = 5a + 10$

最初に決めた数を a とすると、手順通りに求めた数は $5a + 10$ という文字式で表されます。手順通りに求めた数 $5a + 10$ から最初に決めた数 a を当てる方法を説明しなさい。

(3) 前ページの手順の⑤を変えて、手順通りに求めた数を5でわると最初に決めた数を当てることのできる新しいゲームを作ります。

- ① 最初に数を1つ決める。
- ② ①で決めた数に10をかける。
- ③ ②の数から8をひく。
- ④ ③の数を2でわる。
- ⑤

上の に当てはまる言葉として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア ④の数に4をたす。 イ ④の数から4をひく。
ウ ④の数に10をたす。 エ ④の数から10をひく。